

# 人間じんかんに生まうれて

“つながりを生きよう” 320

## 今今今が 弥陀大悲の真ん中

過去の今も、未来の今も、現在の今も阿弥陀の時間、  
大悲の真ん中なんです。

### 大島一声

「暑さ寒さも彼岸まで」とは言うものの今年の春分は言葉通りにはならなかったように思います。下旬になってもまだ雪は降るし、雪囲いを外すときは冷たい風が吹いていました。それでも、時折、日差しが出ている暖かな日もあり、少しずつ桜のつぼみも膨らんできました。

彼岸の中日の三月二十日から、朝五時に梵鐘、その後、十五分前から晨朝勤行を行っています。まだ寒く昏いのです

が、本堂の扉を開けて皆様のお参りをお待ちしております。

表題の言葉は、先日の間法会での講師、大島一声さんの言葉です。録画したお話しを聞き直していたのですが、自身のお父さんのこと、お母さんのこと、奥さんのことを通して、その体験と心に思ったこと、そして自分がどのようなものであるのかを見据えて、九十一歳の今日までの聴聞から培われてこられた自身の受け止めを話してくださいました。

大島一声さんは自身は悪人で

あり善人(善人づらした者)でもあると信仰告白され、善悪はなく、すべては念仏による「俱会一処くえいつしょ」の世界であることをを説いて下さいました。心を引き寄せられ、これが最後のお説教になるかもしれないの思いで聞いていました。

今年はまだ寒い日があるかもしれませんが。身体を大切に生な活かいたしましょう。

## 4月真敬寺行事予定

1日(月) 本山春の法要中継 10時

師徳奉讃法要

7日(日) 日曜学校 午前9時

11日(木) 正信偈の会 午後1時半

17日(水) 定例間法会

法話 林 拡 さん

21日(日) 日曜学校 午前9時

## 定例聞法会法話の聞書

## 追悼会

大島 一声(おおしま いっせい)さん

高岡市荒高屋



「倶会一処(くえいっしょ)

またあいましよう

永遠の今」

私は皆様に出会うことを願って、  
今日ここに参りました。

今日は本当に私にとりまして幸  
運な日であります、皆さんに聞いて

欲しいと前から思っておりまして、  
今日この「倶会一処」の話が出来、  
本当に最高のしあわせです。

世界中にあまたの宗教がありま  
すが、この「倶会一処」ということは  
お釈迦様がお亡くなりになる時に  
皆様のことを限りない深い愛情を  
もって、慈悲をもって、説いてくだ  
さったことなのであります。

ものは殺す、嘘はつく、腹は立て  
る、ごまかす、そんな我々の生き様  
を、ごらんになって、私たちが一番よ  
ろこぶことを残されたのがこの「倶  
会一処」なのです。

「♪曇り硝子を手でふいて

あなた明日が見えますか」  
私にとって明日は未来です、そし  
て死後です。

皆さんはだいたい九十歳ぐらいま  
では生きられると思っておいでます

か？ 今日新聞を見てましたら、  
十代二十代四十代で亡くなってお  
られる方々がおられました。

自分の一生を考えますと、たと  
え九十歳まで生きられると思って  
いても安心できない。死んでどこに  
帰るかわからないと暗黒です。

ですから「今」が大事なんです、  
「今」は永遠の「過去の今」ですし、永  
遠の「未来の今」です、「今」というこ  
とを親鸞聖人は私たちに

歸命無量寿如来

永遠の「今」を生きる私

南無不可思議光

「今」はどこにいても真ん中  
であることを教えておられます。

壮大なお話して恐縮ですが、「ア  
ミダ」ということは時間無限、空間  
無限という言葉なんです、我々は  
「今」の中にいることを教えておられ

るのです。アミダの世界に包まれて  
いるということは、いつでもどこで  
も誰でも、そこで死んだら弥陀大悲  
の真ん中ということなんです。お釈  
迦さまが亡くなられるときに「また  
浄土で逢いましょう」とおっしゃて  
くださったのですね。

善人は善人のまま念仏を申し、  
悪人は悪人のまま念仏してどこも  
直さず、あるがまま、そのまま。「南  
無阿弥陀仏」と申すものは、皆、仏  
になり浄土でお会いできる、とお説  
きになります。これはお釈迦さま  
の愛なんです。どんな悪い子供でも  
親は見捨てません。深い愛がありま  
す。お釈迦さまは、人を千人殺した  
人とお浄土で御飯を一緒に食べよ  
うと仰る。善悪はないんです。善人  
悪人ということは仏法にはないんで  
す。浄土の仏教は善人悪人を区別

するものではありません。

「♪夕焼け小焼けで日が暮れて

山のお寺の鐘が鳴る

念仏となえて皆かえろう

ほとけの浄土に

かえりましょう」

善人も悪人もありません。念仏は  
仏の心です、仏の「いのち」です、で  
すからみな浄土へ帰れるのです。

私は悪人の王様です、悪人の下の  
下の下です。魚や肉、虫を殺してき  
ましたその罪は逃れませんが、けれ  
ども阿弥陀様は、直さなくてもそのま  
ま悪人のままでよいとお説きにな  
るのです

人を悪人扱いをする世間もまた  
悪人です。何もしないと言いながら  
心の中では何度も人を殺してきた  
のではないでしょうか。私自身、何  
度心の中で母を殺してきたことか

と思います。

善人は念仏されません。「私はあ  
んな悪いことをしていない」といいま  
すが、善人面づらをする者が一番悪人な  
んです。善人はうぬぼれですから。  
その善人といえども念仏をするので  
すね。これも私自身のことです。そ  
れでも皆助かると阿弥陀様は仰る  
のですね。

私はすぐわれない人間の第一人  
者ですから、私がすぐわれないのな  
ら誰が救われるのでしょうか。いつ  
も思っています。この私が助かるの  
ですから、みんな助かると心から申  
上げたいのです。私みたい善人面づら  
したものはいない、最も最悪ですね。

「俱会一処」の「俱」は「ともに」と  
言いますね。「みんなともに」なので  
すが、近頃はお墓の問題が出てきて  
いるようです。この人(たち)と「一緒

に入りたくない」という人がおられるようです。そんなことを言っているところにも人間のすくいなきが現れていますね。

私はお父さん(酒飲みでしたが念仏三昧の人でした)も、お母さん(喧嘩の絶えない人でしたが聴聞三昧でした)も、それぞれに複雑な思いはありますが、念仏にすくわれました。お父さんにもお母さんにも「念仏してまた会いましょう」と思っています。

この「俱会一処」という言葉に涙が出てきます。

実際のお話は  
YouTubeで



## 4月の聞法会は

17日(水)

午前9時30分～ 午後1時30分～

講師 林 拓 さん

(石川県辰口町 誓立寺)

気軽にお誘いあわせてお参りください。

先月は「春はもうそこまで」と書いたのですが、3月中旬に思いがけず雪が降りました。「三寒四温」とはいいいますが、自然は、なかなか思い通りにはなりません。

春の訪れは、光←音←気温の順に来るといいいます。日の出が早く、日の入りが遅くなっただけでなく、日中の陽光もなんとなく明るく感じられます。寺の周囲では鳥の声も春めいて感じられます。4月には真敬寺境内の桜も咲くことと思います。

人間の思いや都合とは関わりなく、自然は約束通りめぐって行くのだなと思われれます。

南無阿弥陀仏

(坊守より)

発行 〒939-1664富山県南砺市竹内440  
真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修  
0763-52-0196 携帯電話090-3760-5692



shinkyouji.com

検索

